



秦野市立北幼稚園

令和7年8月28日



地域の皆様と「ささら踊り」の輪を広げています



昨年度、保存会の皆様に教えていただいた北地区の伝統芸能である「ささら踊り」の輪が広がっています。今年度の市民体育祭では年長児が「ささら踊り」に参加させていただき、その様子に年少児が見入っていました。興味をもった年少児が年長児に教えてもらったり、小学校で1年生と一緒に踊ったりして親しんできました。7月の北地区納涼祭では、保存会の方の踊りに園児や保護者、小学生、地域の方なども加わり、心が温くなるひと時を過ごすことができました。北地区ならではの踊り、行事などに小さな頃から触れ親しむことが郷土愛につながっていくのではないかと思います。また地域の様々な方とふれあい、親しみをもつことも大切な経験だと考えています。



自然からいろいろなことを学んでいます



年少、年長それぞれの保育室にはたくさんの生き物がいます。6、7月はテラスにネットをかけたパンジーの植木鉢があり、その中には子ども達が見つけたツマグロヒョウモンの幼虫がたくさんいました。幼虫が大きくなるにつれ、葉を食べるスピードもアップ。茎だけ残り、きれいに食べ尽くしていき、「餌が足りなくなったらどうしよう」と子ども達が心配するほどでしたが、無事に幼虫からサナギへ、そしてチョウへ姿を変え、次々と飛び立っていきました。「バイバイ」「元気でね」と見送る子どもたちの姿が素敵でした。

園生活の中で、じっくりと飼育物に関わり、生き物の誕生や変態、時には死に触れることで、命について考えたり、命の巡りに気づいたりすることができます。また不思議さを感じ、友達や先生と発見を伝え合うなどし好奇心や探究心も育ちます。これから目を輝かせて自然からいろいろなことを学ぶ子ども達から目が離せません。



地面に落ちたサナギを羽化させるため、割り箸に吊るしました。無事に羽化し、その様子を目の前で見ることができました。

開放感を味わいのびのびと遊びました～水・砂・泥に触れて～



今年の夏はプール遊びだけでなく、たくさん砂・泥遊びもできました。手だけでなく、足の裏から伝わる感触を楽しみ、飽きることなく遊び続けていました。感覚をフル回転させて遊ぶ砂・泥遊びはとても魅力的。印象的だったのは、年長児がしていた「とい」をつなげて水を流す遊びを自分達でやってみようとする年少児の姿でした。重ね方や角度によって、水は「とい」を流れずこぼれ落ちてしまいます。水を流しては考え、試し、下までうまく流れた時には満足そうな笑顔を見せていました。じっくり試す時間をこれからも大切にしていきたいと思っています。

